

ブラジル
アマパ・イニシアティブ

現地からのお便り

2016年10月
コンサベーション・インターナショナル

私達は「“空気をはぐくむ森”プロジェクト」の中で、アマパ国有林とアマパ州有林という2つの保護地域の保全に取り組んでいます。今年の7～9月の四半期の活動をご報告しましょう。

地域の広報ネットワークの支援と保護地域の管理

保護地域は人々の幸せを生み出すのに重要な役割を果たしますが、人々が手を触れてはいけない場所、地域の経済発展を妨げる場所と考えられがちです。そのため、保護地域についてよりよく理解され、管理されるためには、広報活動に取り組むことが重要です。広報活動を通して、保護地域の役割である社会的、経済的、環境的な利益を生み出すことができます。私達は以下の活動を通して、広報計画の策定に取り組んでいます。

私達は、アマパ州の保護地域の広報計画作りの戦略の一部として、広報ワークショップを開催しています。前回のお便りでお伝えしたように、3月と4月に合計3回、そして今回9月に1回のワークショップを行いました。9月のワークショップには、25名が参加し、州の保護地域を管轄するアマパ森林研究所（IEF）とアマパ州森林局（SEMA）、国の保護地域を管轄するシコ・メンデス生物多様性保全協会からの出席者に加え、アマパ州政府の広報業務を担当する、アマパ州広報局からの参加も得ました。



図1：アマパ州の保護地域のマネージャー達の参加を得て9月初頭に行われたワークショップの様子（写真：SEMA/Jair Borges）

ワークショップでは、「メタプラン」と呼ばれるグループ作業を通じてアイデアを可視化する方法論を活用しました。また、広報計画の構成を組み立てるために、問題を明らかにし、公的な目標を設定し、製品を決め、行動計画を作る「4P（課題（problem）、公共（public）、製品（products）、計画（plan）」と呼ばれる方法論を用いました。



図2：4Pの方法論のマトリックス

ワークショップでは 5~6 人からなる作業グループを作り、各保護地域にフォーカスした議論を行いました。そのため、保護地域の効果的な管理に役立てられるように、それぞれの保護地域に合った広報戦略の議論ができました。



図 3： 広報ワークショップでの作業グループの様子（写真：CI/Geni Frota）

次のステップは、イベント、議会、ワークショップで広報計画に関する情報を広めることに加えて、小冊子やビデオを通して広報計画の実施に貢献することです。

多様な目的を満たす森林の管理とアグロエコロジープログラムの支援

経済活動は、地域の社会・経済的な開発にとって重要です。持続可能性が重んじられれば、経済活動によって戦略的に生態系のバランスが維持され、人々の幸せを生み出すことができます。

9月10日から14日に、アマパ国有林で、コパイバ油の抽出の成功事例について学ぶ研修を開催しました。コパイバ油は、アンディローバ、ブリュー、ファバなどの他の林産物とともに、地域の抽出者によって化粧品に使用されています。



図 4： アマパ国有林で、コパイバ油抽出のベストプラクティスを学ぶ研修の様子（写真：ICMBio/Sueli Pontes）

この研修は、アマパ国有林とアマパ州有林の持続可能な利用に関する戦略の一部です。両保護地域の管理計画に含まれる、コミュニティ森林管理プログラムの手段として実施されました。

おわりに

プロジェクトは、アマパ州でのパイロット的な活動の強化を支援しています。この支援を通じて、自然と近いところで生活する人々の幸福を向上させることを目指しています。また、農業生態学をベースとした持続可能な活動の実践を促し、木材及び非木材林産物の管理を向上させ、コミュニティの社会資本を高め、これらの課題を広報していく支援を進めています。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。